

「医工の絆」ハイブリッド医療人養成コースシンポジウム
ファン・デン・ブルックとモーニッケの生誕200年を記念して

日本の科学技術導入に貢献したファン・デン・ブルックと牛痘を普及した日本近代医学の魁モーニッケはともに1814年に生まれ、今年生誕200年を迎えました。長崎大学大学院医歯薬学総合研究科は工学研究科とともに「医工の絆」ハイブリッド医療人養成コースを立ち上げました。新式耳鏡を開発しオランダにおける耳科学の分野のパイオニアでありながら、日本で科学技術を伝習したファン・デン・ブルック、聴診器や麻酔の情報をもたらしたモーニッケこそ「医工の絆」ハイブリッド医療人の名にふさわしく、大学院生諸君に彼らについて知っていただきたいと思い、このシンポジウムを企画しました。日本人はオランダの実践的な科学や医学に心惹かれ、蘭学、蘭方を学び、日本の医学を向上させてきました。その歴史から多くのことを学んでいただければ幸いです。

「医工の絆」ハイブリッド医療人養成コースシンポジウム
ファン・デン・ブルックとモーニッケの生誕200年を記念して

平成26年6月28日土曜日 午前8時50分から12時50分

長崎大学医学部良順会館ボードインホール

(長崎市坂本1-12-4、医学部正門右横)

対象 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科・工学研究科学生、洋学史学会員等

8時50分

開会式

初めに シンポジウムの目的、演者紹介

1. 杉田玄白と蘭医学の主張：『狂医之言』を読む

W. J. ボート／ライデン大学地域研究研究所 (LIAS) 教授

2. 江戸・明治初期の医療器具について

W. ミヒェル／九州大学名誉教授

3. 日本近代医学の魁 オットー・G. J. モーニッケ

相川忠臣／長崎大学名誉教授、日本赤十字社長崎原爆病院

4. **J. K. Van den Broek as representative of the transitions of medicine and technology.**

H. ボイケルス／ライデン大学スカリゲル研究所 教授

5. 視学機器発展とボードインの臓器別医学講義

相川忠臣／長崎大学名誉教授、日本赤十字社長崎原爆病院

討論 30分

12時50分終了

*ボイケルス先生のみ英語で講演を行います。

ハイブリッド医療人養成コースシンポジウム
ファン・デン・ブルックとモーニッケ生誕 200 年を記念して

■日時：平成 26 年 6 月 28 日（土） 8：50～12：50

■場所：長崎大学 医学部 良順会館ボードインホール

■演題／演者：

1. 「杉田玄白と蘭医学の主張：『狂医之言』を読む」 /W. J. ボート先生
2. 「江戸・明治初期の医療器具について」 /W. ミヒェル先生
3. 「日本近代医学の魁 オットー・G. J. モーニッケ」 /相川 忠臣先生
4. 「日本近代科学技術の先駆者 J. K. ファン・デン・ブルック」 /H. ボイケルス先生
5. 「視学機器発展とボードインの臓器別医学講義」 /相川 忠臣先生

■参加者：77 名（学外 14 名、学内 63 名）



■内容：

オランダのライデン大学よりハルメン・ボイケルス先生、ボート・ウィレム・ヤン先生、九州大学よりヴォルフガング・ミヒェル先生、長崎原爆病院より相川忠臣先生をお招きし、ハイブリッド医療人養成コースシンポジウムを開催いたしました。これは、ハイブリッド医療人養成コースのコース科目の一つ、「学外連携セミナー」の一貫として行われたものです。医工連携が大きなテーマとなっている本プログラムにおいて、江戸・明治の頃の医療や科学技術、医療器具などについての先駆者である杉田玄白やファン・デン・ブルック、モーニッケなどについて幅広い視点でお話していただきました。

江戸時代唯一開国していた長崎という場所に、オランダとの貿易により入ってきた医療技術や知識があり、それを島で開花させたという歴史がありました。あらゆることで外国からのモノや文化があふれ、最先端であった長崎であるからこそ、その当時の人々の意思を受け継ぎ、またここから最先端の医療機器を開発することに意味があるのだと感じたシンポジウムとなりました。